

おむつと春香の日常

第一話 秘密のおむつ遊び

Paraphilia -倒錯の樂園-

目次

第一章：春香の秘密

第一章：春香の秘密

春香はバスの座席に座り、足をぎゅっと閉じて体を縮こまらせていた。窓の外を流れる街並みが、ぼんやりとぼやけて見える。

学校からの帰り道、いつもならのんびり景色を楽しむのに、今日はそんな余裕が全くない。膀胱がパンパンに膨れ上がり、いつ破裂してもおかしくないような圧迫感が、下腹部をずっしりと支配している。

バスがカーブを曲がるたび、揺れが膀胱を刺激してくる。ぐっと歯を食いしばり、春香は内腿を擦り合わせる。まだ家まであと少し。耐えろ、耐えろと自分に言い聞かせる。

「まずい……おしっこ、もれちゃうかも……。」

春香は小さくつぶやく。声に出すと余計に我慢がきかなくなるのに、つい漏れてしまう。おしっこの出口がじわじわと熱くなり、尿意が波のように押し寄せてくる。

バス停に着くまであと何分だろうか。スマホを握りしめて時間を確認するが、数字を見るだけで焦りが増していく。

隣の席のおばさんが新聞をめくる音さえ、膀胱を刺激する振動のように感じる。春香は右手で股間を軽く押さえ、息を潜める。ここでおもらしするわけにはいかない。でも、もし本当におもらししてしまったら、一体どうなるんだろう。この矛盾した気持ち、春香の秘密の楽しみの一部だ。

そう、春香はおしっこを我慢するのが好きな、ちょっ
っとだけ変態さんな女の子なのだ。

(中略)

「もう限界……早く、早く！！」

春香は自分の部屋に飛び込み、ドアを閉めて鍵を
かける。クローゼットの奥の棚から、隠してある袋
を春香は急いで取り出した。

中身は、履くタイプの子供用の紙おむつ。小柄な
春香は、スーパーBIG なら履けるのだ。

春香はじたばたと足踏みをしながらスカートをま
くり上げ、お姉さんパンツを脱ぎ捨てる。小ぶりの
可愛らしい春香のお尻がプリンと露わになった。

「よいしょっと。」

春香はそう言いながら急いで紙おむつを履いた。
おむつをしっかりと腰まで上げて、お尻にぴったりと

フィットさせる。おむつの柔らかい感触が、春香の汗ばんだ恥部に優しく触れる。

「今日は今までで一番危なかったあ……。」

春香は安堵の息を吐きながら、ベッドの近くでしゃがみ込むと、おむつの上から手でおまたを軽く押さえる。しゃがんだことによって、大きな圧力が春香の膀胱を圧迫した。

春香はそのまま手を前後に動かした。大丈夫、お

しっこはまだ我慢できる。限界を迎えるまでは、こうして優しく、時に激しく股間をまさぐる。

春香はおむつ越しにクリトリスを刺激する。じわりと快感が広がる。

「んっ……気持ちいい……あっ。んっ。」

(中略)

春香は目を閉じ、妄想を膨らませる。誰も知らな

い秘密の遊び。学校では普通の女の子だけど、こんな大きな秘密がある。春香は、本当はちょっぴりえっちな子なんだ。